

平成29年度 学校評価実施報告書

幼稚園名 (京都市立 みつば 幼稚園)

1 幼児が主体的に遊ぶ姿を重視する 保育の改善・充実	
○ 幼児が心を動かし夢中になって遊ぶ楽しさを十分に味わうことができるように、教師がモデルとなり共に遊び込み、援助を行う。	
○ 計画性をもった保育と、幼児が主体的に遊び満足して1日を過ごすことができたかをしっかりと振り返り改善するPDCAサイクルの確立。	
(取組結果を検証する) 各種指標	
○ 幼児の姿の変容, 事例検討	
○ アンケート項目①「子どもは幼稚園で自分から遊びをみつけて遊ぶことを楽しんでいる」②「幼稚園では子どもが自ら心を動かし生き生きと活動ができるよう、援助をしたり、環境を整えたりしている」③「子どもは幼稚園で豊かな経験や体験ができ、様々な気付きや発見をしている」	
各種指標結果 (1回目)	
○ 幼児の姿の変容について (事例検討・週案の反省・評価の記述等から)	
○ アンケート結果①100%②98%③100%あてはまる・どちらかというにあてはまる評価。	
自己評価	分析 (成果と課題) 「心と体を動かし、夢中になって遊ぶ子どもの育成」という研究主題に向けて、教師の援助、環境の構成を考えて保育する中で、子どもが自ら環境にかかわり、主体的に体を動かす姿が見られる。教師自らモデルとなり遊び込む指導を意識してすることができた。
	分析を踏まえた取組の改善 子どもが夢中になって体を動かして遊ぶことができる援助や環境について、子どもの姿を更に的確に見取りながら、計画的に行っていけるように教員が共通意識をもって取り組んでいく。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・ 今、言われたことをするのではなく、自分で考えて行動することが求められる時代に主体的に遊びを展開している幼稚園の子どもの様子、またアンケート結果も望ましい。地域の人々とのかかわりも主体的にできるように、つなぎを更にしていきたい。 ・ 子どものこのような育ちをもっとアピールすべきである。
	評価日 平成29年9月28日 評価者 学校運営協議会みつばの森
各種指標結果 (2回目)	
○ 幼児の姿の変容について (事例検討・週案の反省・評価の記述等より)	
○ アンケート結果①100%②100%③100%あてはまる・どちらかというにあてはまる評価	
自己評価	分析 (成果と課題) 「心と体を動かし、夢中になって遊ぶ子どもの育成」の研究主題が定着し、総合的に保育を構成する中でも常に意識して環境や援助を考えてきたことが、子どもの意欲や体力の向上につながった。
	分析を踏まえた取組の改善 子どもの発達や安全等への専門知識をさらに高め、主体的に体を動かして遊ぶ環境や援助について、行事の在り方の再考を含め、日々の保育を計画的に園全体で取り組む。

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ○ 運動会等の行事に参加すると、子どもたちの意欲的に遊ぶ姿が見られ、研究主題への取組が良好に行われていることがわかる。 ○ みつばの森のミニうんどうかい等の実施等、これからも園と相談して協力していく。	
	評価日 平成30年3月8日	評価者 学校運営協議会 みつばの森
2 小学校への学びにつなぐ「学びに向かう力」を育む 幼小接続の視点 ○ 年間交流計画の作成 ○ 新町小学校、西陣中央小学校への保育公開、授業参観、合同研修 ○ えほん室の親子での活用と「親子で絵本！」の活用		
（取組結果を検証する）各種指標 ○ 実際の交流時、交流後の事例検討 ○ 公開保育・合同研修の回数・内容 ○ 絵本の貸し出し状況と「親子で絵本！」の活用と記述内容 ○ アンケート「保・幼・小・中の連携をすることは子どもの心の育ちに役立っている」		
各種指標結果（1回目） ○ 交流前・交流後の検討内容について ○ 保幼小中研修会参加の教員の学び ○ 読書100冊1割以上達成 ○ アンケート項目91% あてはまる・どちらかというとあてはまる回答		
自己評価	分析（成果と課題） ○ 去年度まで小学校との連携の核であった農園活動が今年度からないため、新たな交流を共に創造していくため細かな話し合い共通理解ができる。 ○ 教員と一緒に絵本を借りる機会と親子で借りる機会を継続していくことで、保護者の意識も高まっている。	
	分析を踏まえた取組の改善 ○ 「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を元に、全体の交流についてだけでなく、個々の育ちについても共通理解を深めていきたい。また、公開保育も日が合わないため実現しなかったが、積極的に行っていく。 ○ 読書については、とても関心のある家庭とそうでない家庭があるので、親子で楽しく取り組めるように働きかけをしていく。	
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ○ 小学校への働きかけや活動の援助をみつばの森としてもやっていきたい。 ○ 学校運営協議会の絵本メディア推進委員会の読み聞かせやえほん室整備の活動が子どもの本への関心につながっていてうれしい。今後も人と人のつながりを大切にした絵本ボランティアを続けていきたい。	
	評価日 平成29年9月28日	評価者 学校運営協議会みつばの森
各種指標結果（2回目） ○ 交流前・交流後の検討内容について ○ 保幼小中（KKP）連携による教員の学び 公開保育2回 ○ 読書100冊7割達成		

○ アンケート項目 98%あてはまる・どちらかというたとあてはまる回答	
自己評価	分析（成果と課題） ○ 上京・烏丸中学校区連携（KKP）の取組により，子どもの姿等，具体的な話を小，中に伝えることができ，特に就学する子どもにも保護者にも，連携による安心感をもたらすことができた。 ○ 親子で絵本を借りることが定着したが，前期同様，関心には差がある。
	分析を踏まえた取組の改善 ○ スタートカリキュラムについて小学校と話を進めていく上で，幼稚園の教育について伝えることと同様に，小学校の教育内容について把握する。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ○ 給食交流や交流授業への参加をふまえ，安心して小学校に進学する手助けが，みつばの森でできた。連携をすることで子どもたちが安心して育つ姿が見られた。これからも成長を見守る取組を続けていく。 ○ 中学校区の連携の中に，幼稚園がしっかり組み込まれていることが，地域の子どもをみんなで育てるという意味でとてもうれしい。今後も取組を進めてほしい。
	評価日 平成30年3月8日 評価者 学校運営協議会 みつばの森
3 自ら体を動かす意欲を育て，基本的な生活習慣を形成し，自信と自立心を育む 心と体・生活習慣	
○ 「心が動き，体が動く」視点に立った，環境の工夫と教師の援助動き ○ 発達に応じた生活習慣の確立に向けた指導と家庭との連携 ○ さまざまな体の動きが経験できる計画的な保育	
（取組結果を検証する）各種指標 ○ 週案・事例検討 ○ アンケート項目①「子どもは体を動かすことが好きになってきている」 ②「子どもたちは遊びや生活の中で体を十分に動かし，体力がついてきた」 ③「子どもは早寝・早起き・食事時間の確立等成果リズムが整っている」 ④「子どもは身の回りの始末を自分でしようとしている」 ⑤「家庭では生活習慣が身につくようにかかわっている」	
各種指標結果（1回目） ○ 幼児の姿の変容について（事例検討・週案の反省・評価の記述等から） ○ アンケート項目①98%②97%③92%④93%⑤96%あてはまる・どちらかというたとあてはまると回答。	
自己評価	分析（成果と課題） ○ 研究主題「心と体を動かし，夢中になって遊ぶ子どもの育成」について共通理解を図り，日常の環境を見直し，教師自らモデルになることを意識して援助することができた。 ○ 親子で休日参観につくった，竹馬，一本歯下駄，竹こっぽり等を生活の中で意図して取り上げたことで，家庭の関心も得られ，子どもの遊びも豊かになり，さまざまな動きの獲得や体力向上にもつながった。
	○ 生活習慣の確立については個人差が大きい状況が見られるが，保護者の意識と実態に乖離がある。

	分析を踏まえた取組の改善 ○ 運動会への取組等の中で一人一人の子どもが味わった、それぞれの「体を動かす楽しさ」を理解し、後期にも継続していけるように、「みつば幼稚園のこの時期ならではの」という環境の構成や援助を計画的に検討し行っていく。 ○ 教師自らが発達に応じた、また発達に必要な経験を理解し、個々の育ちをしっかりと読み取り、援助に活かせるように更に研鑽に励む。 ○ 生活習慣の確立に向けて、個々や学年の発達に応じ、家庭と連絡を更に密にとり、指導していく。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ○ みつばの森が、預かり保育時間に「ミニうんどうかい」を行い、運動会への子どもたちの期待を膨らませ楽しめたことはよかった。今後も研究主題と絡めながら援助をしていきたい。その要請を園の方からどんどんしてもらいたい。 ○ 園の環境が、「体を動かしたい」という子どもの思いを育てる意図があることがわかる。そのような中で育つ子どもたちの姿を発信してほしい。 評価日 平成29年9月28日 評価者 学校運営協議会みつばの森
	各種指標結果（2回目） ○ 週案・事例検討内容 ○ アンケート結果 ①99%②98%③96%④91%⑤98%あてはまる・どちらかというときあてはまる回答
自己評価	分析（成果と課題） ○ 寒い中でも、戸外に自ら出て体を動かして遊ぶ姿が見られ、それを支える体力も大きいについてと考えられる。教師も共に活動する中で、更に意欲的な姿が見られた。 ○ 「運動」ということだけではなく、生活の様々な場面で、心が動く、体が動く事例が見られた。 ○ 生活習慣の確立については、個人差が見られ、家庭との連携を密にすることに努めた。 分析を踏まえた取組の改善 ○ 更に子どもの発達等の専門知識を学び、その伸長のための援助や教材等の発掘など、研鑽を高める。 ○ 生活習慣の確立についての家庭の悩み等について敏感に感じ取り、更に寄り添っていく。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ○ アンケート結果からも、幼稚園からの発信内容からも、子どもたちの心と体が生き生きと動いている様子が感じられる。体力がついた実感が保護者にあるということも好ましい。生きる力の基礎だと思う。これからも園の要請によって協力を惜しまない。 評価日 平成30年3月8日 評価者 学校運営協議会 みつばの森
4	自己発揮と自己抑制の調和のとれた自律性（折り合う心）を育む保育を推進する 信頼関係・折り合い・自己肯定感・公共心の芽生え ○ 教師との信頼関係 ○ 自己肯定感を育てる援助 ○ 一人一人が活かされる友達関係づくり ○ 協働的な遊びへの援助

(取組結果を検証する) 各種指標		
○ 事例検討 ○ アンケート①「子どもは毎日登園することを楽しみにしている」②「子どもは自分の思いを素直に表そうとしている」③「子どもは幼稚園で様々な感情を体験している」④「幼稚園は一人一人のよいところを認め励ましながらかかわっている」⑤「幼稚園は子どもの様々な気持ちを受け止め子どもの心の育ちを援助している」⑥「先生や友達とのかかわりを楽しんでいる」⑦「幼稚園の教職員は話しやすい雰囲気をもっている」		
各種指標結果(1回目)		
○ アンケート項目 ①97%②93%③100%④98%⑤98%⑥100%⑦97% あてはまる・どちらかというにあてはまると回答 ○ 人権研修や園内研究での事例検討内容		
自己評価	分析(成果と課題) ○ 全体的に高い評価で喜んで登園している様子がわかるが、「自分の思いを素直に表わしている」項目が他より低い評価である。 ○ 子どもと教師、保護者と教師の信頼関係は概ね良好だが、個別には配慮が必要である。	
	分析を踏まえた取組の改善 ○ 一人一人の思いに更に寄り添い、集団の中で、子どもが自信をもって自分らしさを発揮できるような援助を今後も心がける。 ○ 子どもが環境に自ら働きかけ、自分で決定して取り組み、友達と協働して遊びを進めていける環境や援助の在り方について追及し実行する。 ○ 保護者への声掛けを意識し、共に子育てをする仲間としての位置を確立する。	
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 幼稚園と子ども、保護者との関係が良好なことがわかる。子育てに不安な面も保護者にはあるのだろう。子育ての先輩としてもかかわりが持てたらと思う。	
	評価日	平成29年9月29日
	評価者	学校運営協議会みつばの森
各種指標結果(2回目)		
○ アンケート項目 ①99%②97%③99%④100%⑤100%⑥100% ⑦100%あてはまる・どちらかというにあてはまると回答 ○ 人権研修や園内研究の事例検討内容		
自己評価	分析(成果と課題) ○ どの項目も保護者アンケートでは、前期よりも高いまたは同様の評価を得た。子ども保護者の気持ちに寄り添う取組を園全体で共通理解し、教員個々が努めてきたことが評価されたことを今後につなげたい。	
	分析を踏まえた取組の改善 ○ 個別には更なるきめ細やかな対応が必要であり、個々に対応できる教員の資質を向上する必要がある。 ○ 子どもに寄り添うことと甘やかすこととの違いや、子どもが伸びるタイミングを見逃さない教員の援助の在り方について研鑽を積む。	

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策	
	○ 先生や幼稚園に対する信頼関係が伺える。また教員のアンケート結果から教員も働きやすい状態がわかる。そのような中で教員自身が安心して子どもや保護者に対応することで、良好な結果が出ているのであろう。	
	○ 大人との信頼関係をつくって、良好な環境の中で育つ子どもたちは自信をもって小学校に進学できるであろう。またその育ちを支えていきたい。	
評価日	平成30年3月8日	評価者 学校運営協議会 みつばの森

園独自の項目	
○ 子育て支援の推進（預かり保育の充実・教育相談の取組・子育て機関との連携）	
○ 地域や他機関とのかかわり（地域行事への参画・特別養護老人ホームとの交流等）	
○ 情報発信の充実（HPの更新等）	
（取組結果を検証する）各種指標	
○ 預かり保育，教育相談の参加人数，園庭開放・教育相談の実施回数及び連携回数	
○ アンケート①「預かり保育は保護者の支援や子どもの安心・安全な遊び場の確保に役立っている」②「地域との連携，地域行事への参加を通して子どもは地域に親しみを感じている」③「地域との連携，地域行事への参加を通して家庭では地域の行事等に関心を持つようになった」④「特別養護老人ホームとの交流連携を進めることは子どもの心の育ちに役立っている」⑤「幼稚園は地域の幼児教育センター的な役割の充実を図ろうとしている」	
各種指標結果（1回目）	
○ 預かり保育参加人数 4月～9月 短時間利用者延べ683名（去年度621名）長時間利用者延べ80名（去年度44名） 教育相談参加人数延べ425名回数23回 小規模保育施設，児相と連携	
○ アンケート項目①97%②95%③94%④97%⑤100%あてはまる・どちらかというにあてはまる回答。	
自己評価	分析（成果と課題）
	○ 預かり保育は短・長時間共に増加。特に長時間利用の増加が著しい。教育相談では、曜日変更や2歳児クラス新設の試みにより，新たな利用者が増加。
	○ 幼稚園の取組をきっかけに，子どもも保護者も地域に目が向いている。 ○ 未就園児に対して保護者も体験談を話す場を設ける等する中で，幼稚園がセンター的な役割をしている認識が高まっている。
	分析を踏まえた取組の改善
	○ 預かり保育に参加することで，降園後も安全で友達と遊ぶことができる場を保障することができている。3歳児の長時間利用が増える中，教育課程内の保育との兼ね合いや個に応じた対応を更にしていく。教育相談については，未就園児とその保護者のニーズを積極的に探っていく。他の就学前施設との連携については更に進めるように努める。
	○ 幼稚園での学校運営協議会や地域との取組について，もっと発信をしていく。

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ○ 地域に関心を持ってもらえていることがわかりうれしい。更に地域の仲間として参画してもらえるように、学校運営協議会としても努力したいし、幼稚園も積極的に働きかけ発信してほしい。 ○ 預かり保育が定着していく中で、仕事を持つ保護者も増えていくことと思うが、幼稚園が大切にしてきたことを大事にして園経営をしていってほしい。	
	評価日 平成29年9月28日	評価者 学校運営協議会みつばの森
各種指標結果（2回目） ○ 預かり保育参加人数 4月～2月 短時間利用延べ6277名（前年6048名）長時間利用者延べ1028名（全年527名） 教育相談登録者数113組（去年度100組） 実施回数47回（去年度43回）参加者数延べ754名（去年度688名） ○ アンケート結果 ①99%②94%③96%④97%⑤100%あてはまる・どちらかというにあてはまる回答		
自己評価	分析（成果と課題） ○ 前期とほぼ変わらない内容だったが、アンケート実施時期により地域とのかかわりへの意識が変わったと考えられ、アンケート表記の工夫が必要と感じられた。 ○ 預かり保育の参加人数が増え、預かり保育と教育課程内の保育との連携が進んだ。 ○ 教育相談では、2歳児保育の重要性を踏まえ、2歳児に特化した取組を始めたことが参加者や登録者増につながった。	
	分析を踏まえた取組の改善 ○ 幼稚園での地域との取組を通して、保護者の地域活動への関心の高まりと、次代を担う子どもたちの地域への愛着が進んでいくように、更に幼稚園の役割について考えていく。 ○ 幼稚園の教育で大切にしたいことを死守しつつ、保護者のニーズ、地域や社会の状況等、様々なことに柔軟に対応し、みつば幼稚園の保育を推進する。	
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ○ 最近、保護者の学校運営協議会や地域への関心が高まっていることを実感する。アンケート結果の少しの差異は問題ない。これからも子どもたちや保護者との実際のかかわりを通して、みつばの森が、幼稚園と地域とのつながりが深まっていくように支えていきたい。 ○ 年々、働く保護者が増えることが予想される。アンケートでも、双方の意見が見られる。幼稚園は、幼稚園として判断し理解を求めていけばよい。	
	評価日 平成30年3月8日	評価者 学校運営協議会 みつばの森